

SUMIDA CORPORATION

成長路線への回帰

2010年度 第4四半期 および通期決算
&
中期経営計画(2010—12年)の進捗状況について

2011年2月21日

CEO – 八幡 滋行

CFO – 松田 三郎

- ▶ 2010年度 連結決算の業績
 - 通期で黒字回復
- ▶ 成長路線への回帰
 - 全ての分野で業績改善 家電、自動車関連、その他産業関連
 - 「製造のシルクロード構想」のさらなる推進
- ▶ 将来を見据えて
 - 2011年度の見通し
 - 年間事業計画
 - 中期経営計画の進捗状況

1. 2010年通期連結業績

(単位:百万円)

	09年	10年						予想と実績の差異
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	予想	
売上高	43,653	12,894	14,107	13,839	12,615	53,445	52,600	845
営業利益	△233	1,027	1,037	1,113	404	3,569	3,700	△131
営業利益率	△0.5	8.0	7.4	9.0	3.2	6.7	7.3	
経常利益	△774	789	444	963	45	2,241	2,730	△489
四半期(当期)純利益	△2,009	654	253	901	415	2,210	2,200	10

2. 2010年第4四半期連結業績概要

(単位:百万円)

	10年3Q	10年4Q	10年4Qと 10年3Qの差
売上高	13,839	12,615	△1,224
営業利益	1,113	404	△709
営業利益率	9.0	3.2%	
経常利益	963	45	△918
四半期純利益	901	415	△486

【第3四半期比】

売上減少による影響

△410

銅価格

△50

△709

販管費

(目標達成ボーナスその他)

△249

3. 営業外損益、特別損益、税金

	(単位:百万円)	
	<u>2010年</u>	<u>2009年</u>
営業外損益		
支払利息(Net)	569	609
為替差損	507	146
デリバティブ評価損	227	△189
特別損益		
減損損失	94	—
事業構造改善費用	40	1,185
固定資産除売却損	32	112
税金		
法人税等	460	309
法人税等調整額	△702	△723
	<u>△242</u>	<u>△413</u>

4. 事業セグメント別情報

(単位:百万円)		2010年	2009年	比較
アジア・パシフィック	売上高	29,536	24,113	122.4%
	営業利益	4,648	2,630	176.7%
EU	売上高	18,688	15,092	123.8%
	営業利益	1,368	△727	—
環境・エネルギー	売上高	5,220	4,446	117.4%
	営業利益	86	275	31.3%
合計	売上高	53,445	43,652	122.4%
	営業利益	6,013	2,178	276.1%
全社・消去	営業利益	△2,533	△2,412	—
連結	売上高	53,445	43,652	122.4%
	営業利益	3,569	△233	—

5. 所在地別セグメント情報

(単位:百万円)

	2010年	2009年	比較	
日 本	11,302	8,013	3,289	141.0%
香港 / 中国	14,155	13,062	1,093	108.4%
台湾 / 韓国	1,100	644	456	170.8%
A S E A N	4,275	4,760	△485	89.8%
北 米	3,922	3,239	683	121.1%
欧 州	18,688	13,933	4,755	134.1%
合 計	53,445	43,652	9,793	122.4%

6. 連結貸借対照表

(単位:百万円)

	2010年	2009年	比較
流動資産	27,168	28,619	△1,451
固定資産	22,145	25,790	△3,645
繰延資産	96	94	2
資産合計	49,410	54,504	△5,094
流動負債	31,318	30,149	1,169
固定負債	9,243	13,287	△4,044
負債合計	40,561	43,436	△2,875
株主資本	19,673	17,847	1,826
評価・換算差額、少数株主持分	△10,825	△6,779	△4,046
純資産	8,848	11,068	△2,220
総資産	49,410	54,504	△5,094

(為替換算調整勘定)

$$\begin{aligned} & \text{€136M} \times \text{¥24.3} \\ & = 3,300 \text{百万円} \\ & \text{US\$85M} \times \text{¥7.7} \\ & = 654 \text{百万円} \end{aligned}$$

7. 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2010年	2009年		2010年	2009年
営業活動による キャッシュ・フロー	3,095	1,888	税金等調整前当期純利益	2,056	△2,365
			減価償却費	2,515	3,035
			売上債権の増加	△835	△1,283
			たな卸資産の増加	△2,193	1,690
			仕入債務の増加	698	767
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,794	△128	有形固定資産の取得	△2,177	△1,100
			無形固定資産の取得	△126	△99
			貸付金の回収	262	251
財務活動による キャッシュ・フロー	△2,191	△3,529	長期・短期借入金	2,222	8,088
			借入金の返済	△3,976	△11,134
			配当の支払	△384	△480
現金及び現金同 等物期末残高	7,275	9,064			

8. 2011年通期業績予想

(単位:百万円)

	2011年	2010年	比較
売上高	55,000	53,445	102.9%
営業利益	4,000	3,569	112.0%
営業利益率	7.3%	6.7%	
経常利益	3,330	2,241	148.6%
当期純利益	2,600	2,210	117.6%
1株当たり 当期純利益(円)	135.32	115.05	

【前提】

為替

1USドル=82円

1ユーロ=112円

【参考】

2010年年間平均

1USドル=88.3円

1ユーロ=118.3円

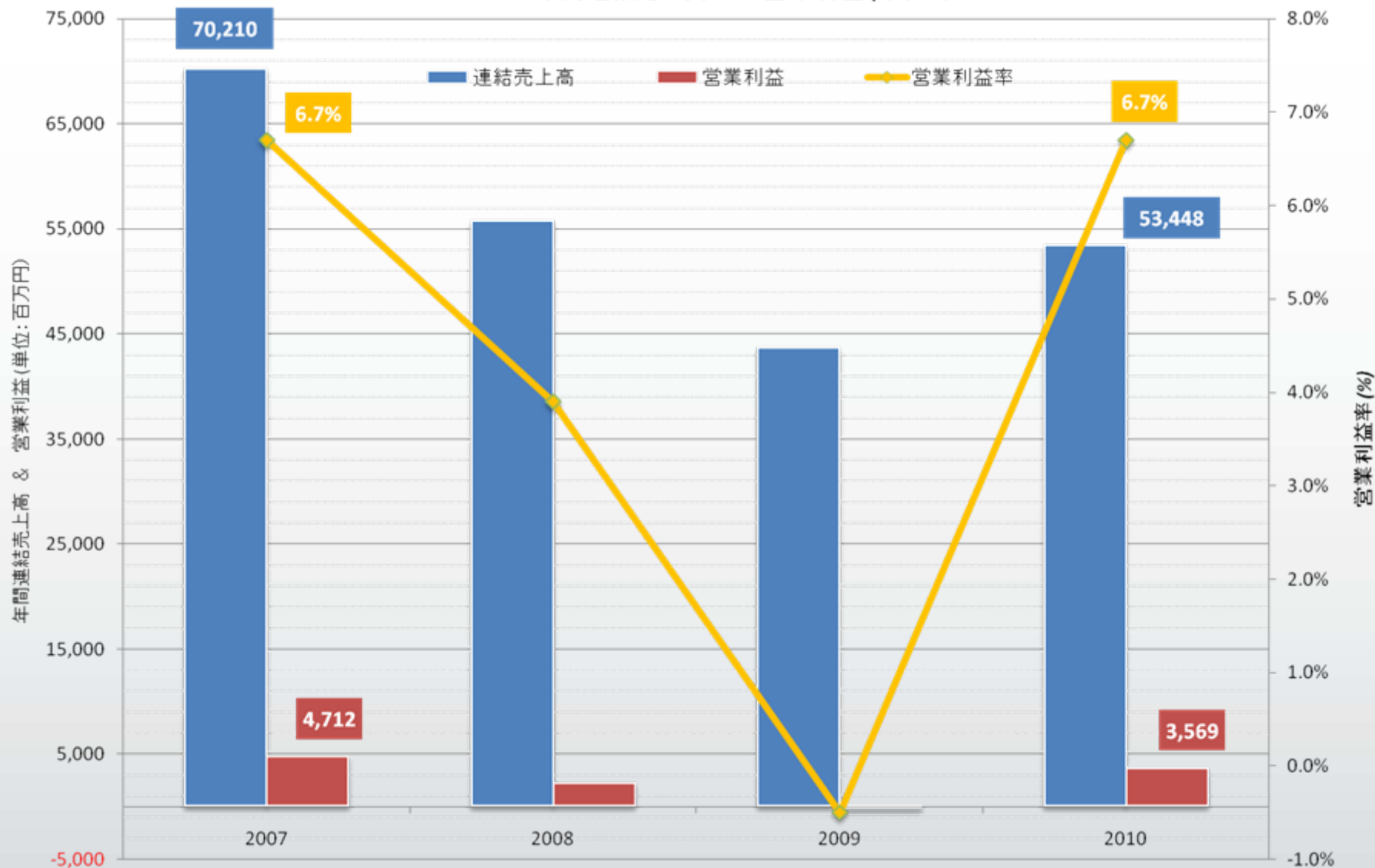
9. 設備投資・減価償却費・研究開発

(単位:百万円)	2009年	2010年	2011年(計画)
設 備 投 資	1,199	2,177	2,420
減 価 償 却 費	3,035	2,515	2,670
研 究 開 発	1,110	1,069	1,330

2010年度の業績レビュー “成長路線への回帰”

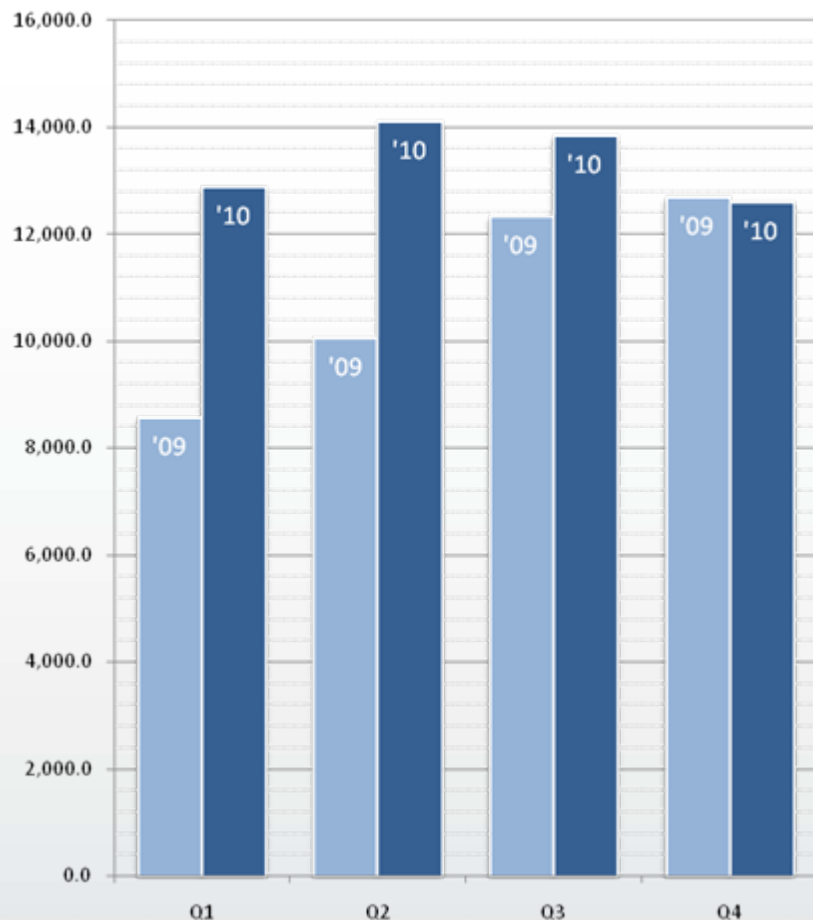
2010年 - 営業黒字の回復

2007-2010年間連結売上高 & 営業利益 (単位:百万円)



2010年の業績レビュー — 売上高

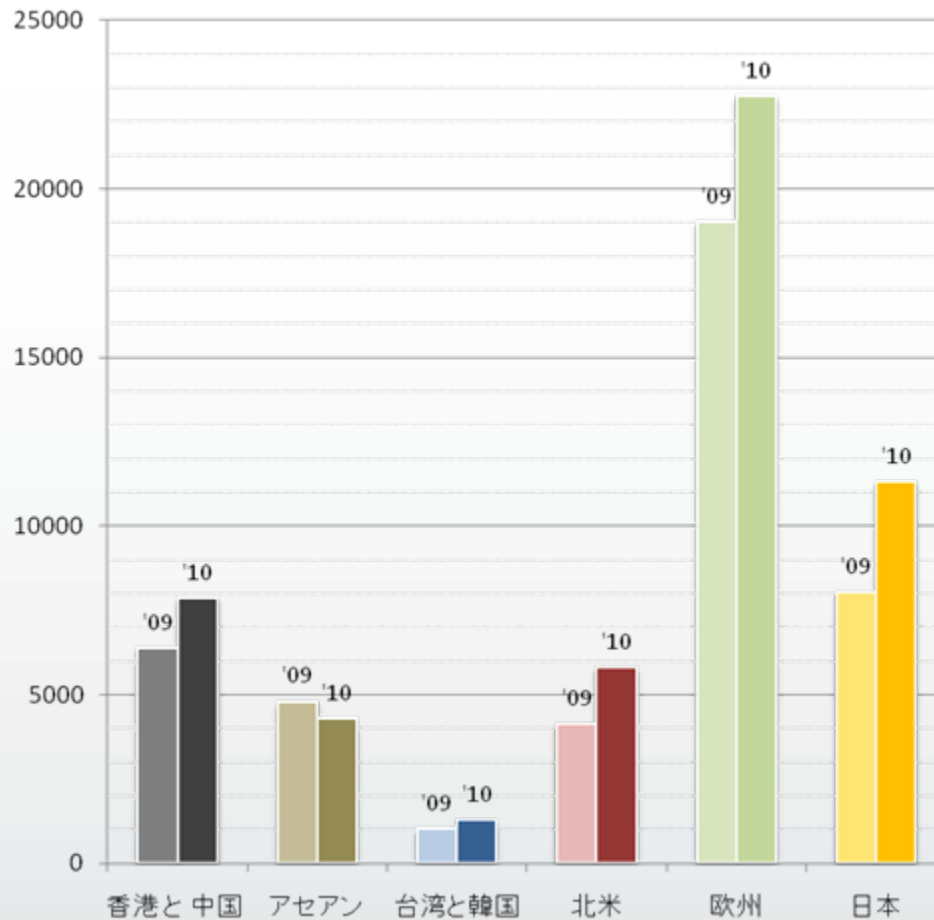
四半期売上高 — 2009 vs. 2010 (単位:百万円)



四半期売上高の対前年比

Q1	Q2	Q3	Q4	Year
50.3%	40.2%	12.3%	-0.6%	22.4%

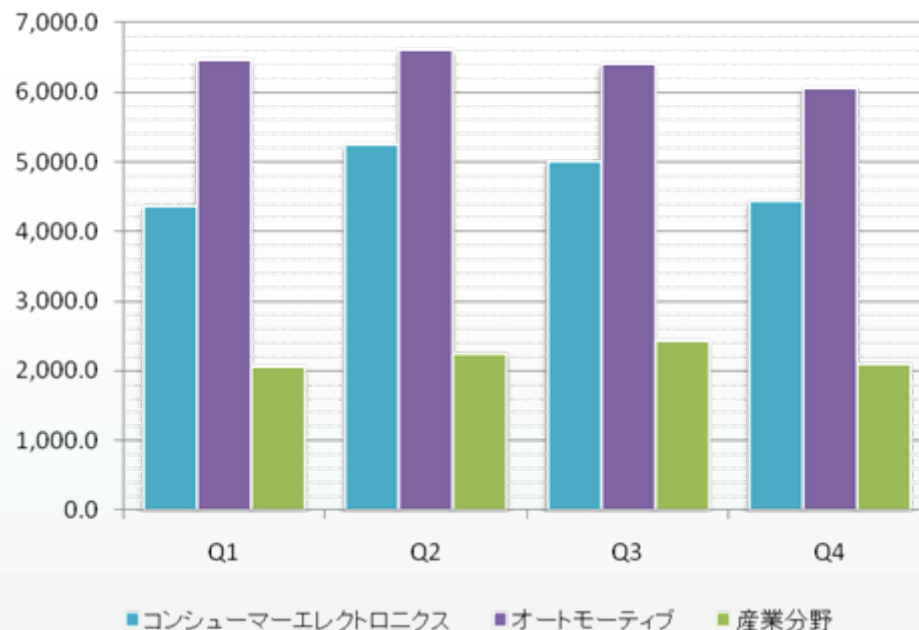
地域別売上高 (単位:百万円)



地域別年間売上高の対前年比

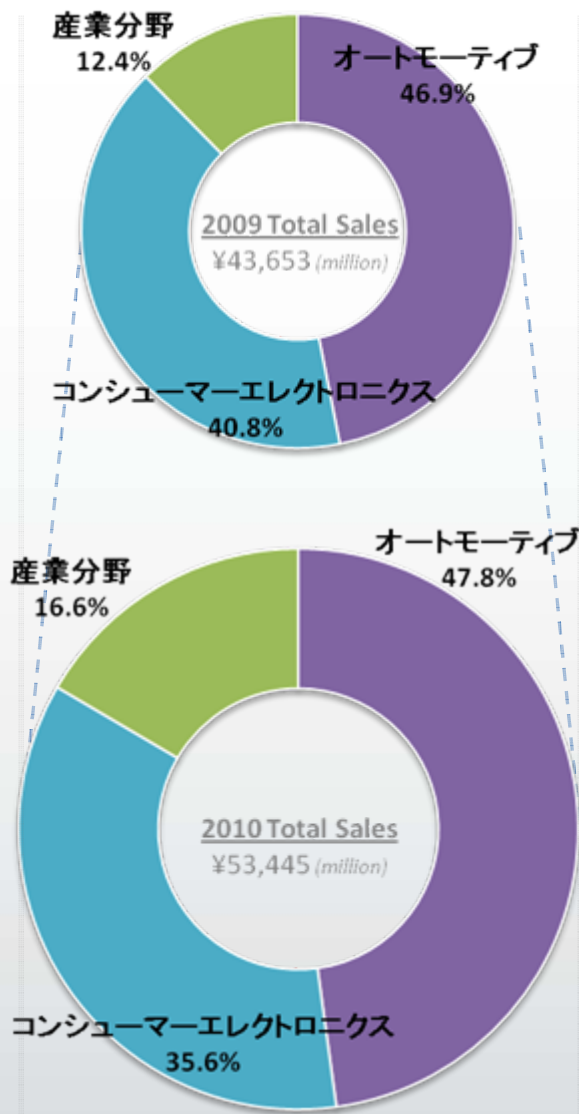
香港・中国	アセアン	台湾&韓国	北米	欧州	日本	Total
23.3%	△10.6%	23.2%	39.9%	19.4%	40.8%	22.7%

2010年四半期 市場別売上高(単位:百万円)

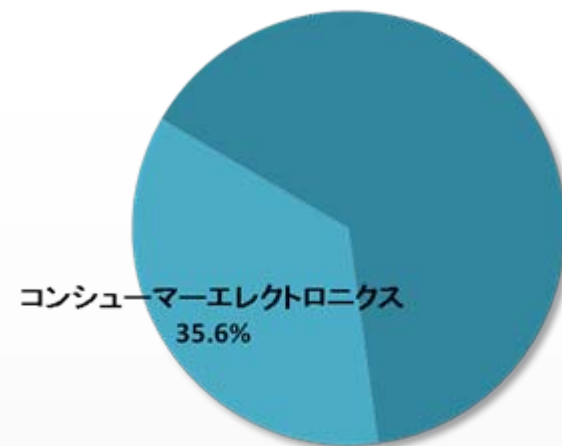


市場セグメントの分類:

- ▶ オートモーティブ – 自動車関連部品(ハイブリッド/電気自動車向けを含む)
- ▶ コンシューマーエレクトロニクス – AV, コンピューター, 通信, 娯楽, 照明, OA器機, 白物家電
- ▶ 産業分野 – 将来有望な高成長市場(セキュリティー、再生可能エネルギー、医療、個体認証)



- ▶ コンシューマーの売上高は対前年比 7% 増
- ▶ 需要の回復
- ▶ スマートフォン及びタブレット型コンピューターが成長を牽引
- ▶ 値下げ圧力あるも高利益率

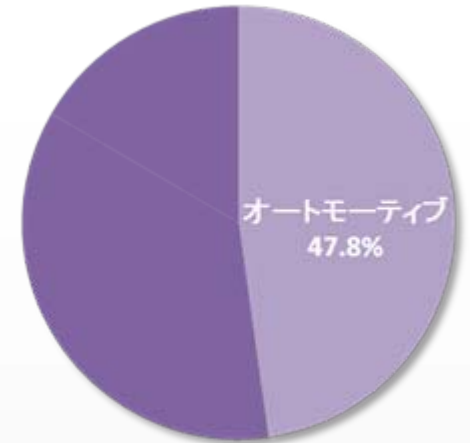


製品ハイライト:

- ▶ パワーインダクター CDEIR85ME
 - ノートPC、スマートフォン等の携帯端末用
- ▶ CDH20DxxD シリーズ
 - 携帯電話、スマートフォン、MP3プレーヤー、デジタルカメラ
デジタルムービー、HDD.
- ▶ CDR910 – 通信機器用

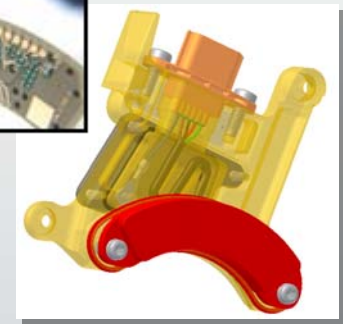


- ▶ オートモーティブの売上高は対前年比 **24.9%** 増
- ▶ ABSコイル、Xenon イグナイターが、2010 年も引き続き売上に貢献

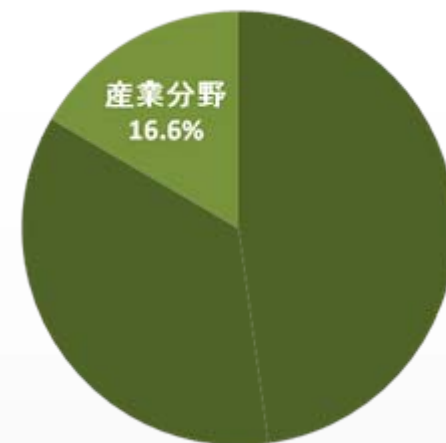


製品ハイライト:

- ▶ 次世代 Xenon イグナイターへの着実な対応
- ▶ 一部製品でOEM メーカーに直接、開発提案を開始
- ▶ 中核技術を保有するメーカーとの協業を進め、HV/EV 市場に



- ▶ 産業分野の売上高は対前年比 **63.9%** 増



ハイライト:

- ▶ 日独両国の太陽光発電インバータ会社にモジュールの供給開始
 - 再生可能エネルギー向けで受注に成功
 - ドイツトップの太陽光発電インバータ会社にチョークモジュールの受注に成功
- ▶ 医療機器への部品供給ビジネスチャンスが拡大
- ▶ 中・長期的観点から積極的な開発・設備投資を行い、市場開拓



製造のシルクロード構想 - 将来への布石

- 中国では政策的に最低賃金の引き上げを継続的に行っている
- 広東省の最低賃金は、3月1日から18%引き上げるとが1月に発表
- 他地域においても、引き上げられる見込み
- 最低賃金の引き上げの対抗策として、生産拠点を、賃金のより安価な地域にシフト



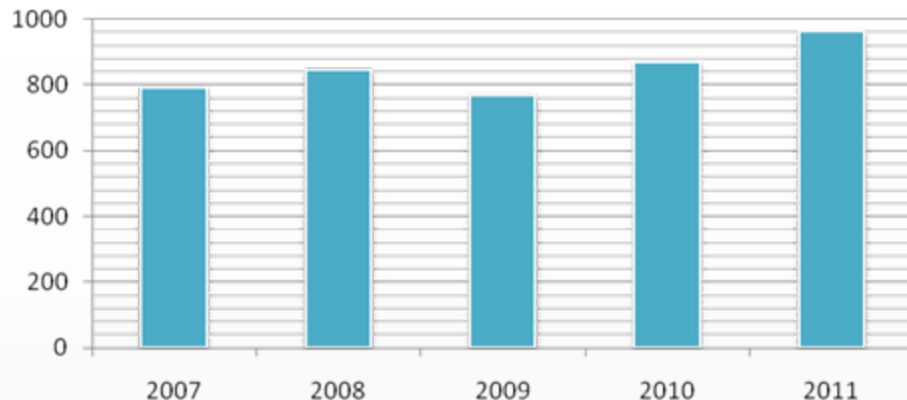
A light gray silhouette of a person standing with their arms crossed, facing right, positioned on the left side of the slide.

将来の展望

2011年の市場環境予測

グローバル・コンシューマーエレクトロニクス売上高

(単位: 億米ドル)

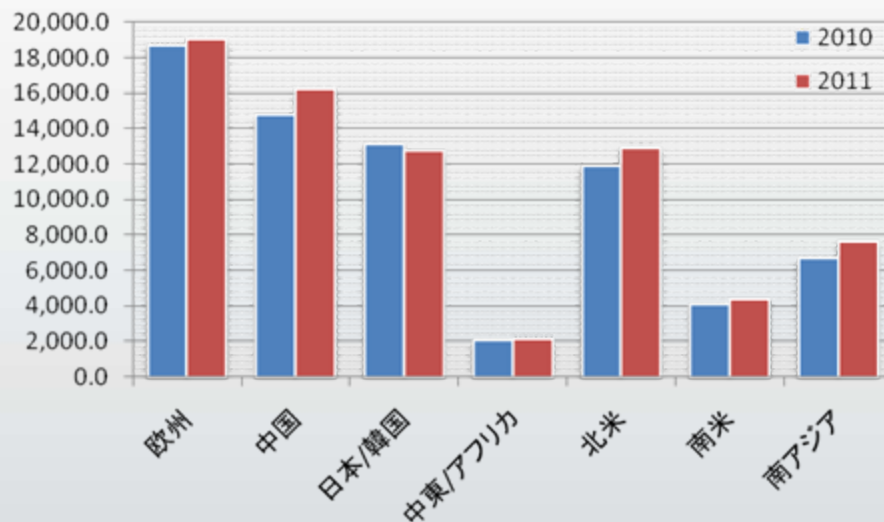


Source: Digital World – 2011 Global CE Sales & Forecast

コンシューマーエレクトロニクス成長率

2008	2009	2010	2011
7%	-9%	13%	10%

グローバル小型自動車生産台数(地域別) (単位: 千台)

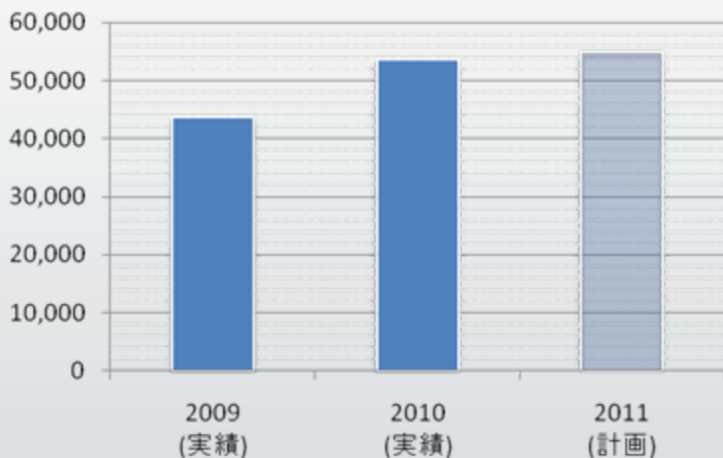


Source: HIS Automotive – Global Production Summary

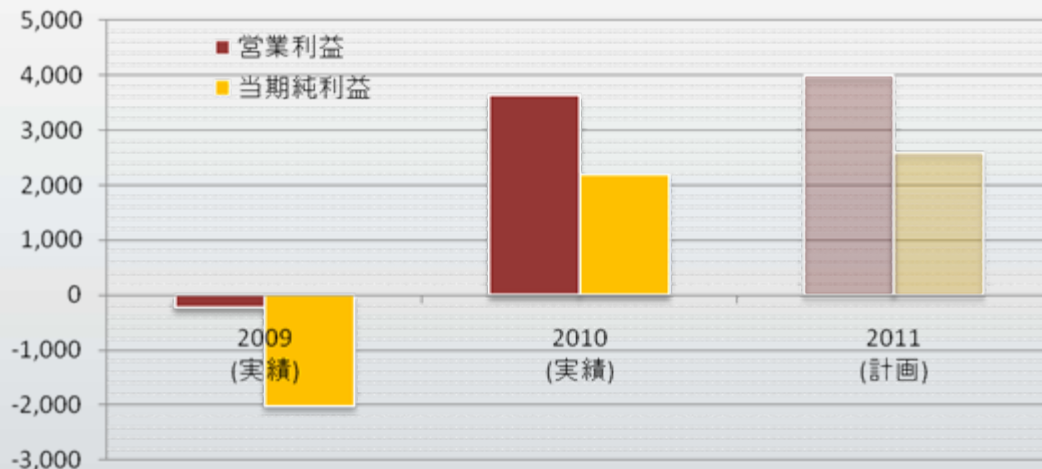
- ▶ 緩やかなペースでの成長見込み
- ▶ 多数の外的リスク要因あり
- ▶ コンシューマー・エレクトロニクスの売上は、スマートフォンとタブレット型PCが牽引
- ▶ アジアの需要増に支えられ、オートモーティブの売上は引き続き回復
- ▶ 産業分野は、有望分野であるが、長期的な取り組み姿勢が必要

- ▶ 売上高目標 550 億円
 - 前年比 2.9% 増
- ▶ 営業利益目標 40 億円
 - 前年比 12.1% 増
- ▶ 純利益目標 26 億円
 - 前年比 17.6% 増
- ▶ 売上高は、現地通貨ベースでは 7-8% の伸びを見込むも、円高の影響により、円ベースの伸びは鈍化
- ▶ 収益性の向上
 - 原価構造の改善
 - 生産拠点のシフト (低コスト生産拠点へ)
 - 高収益製品へのシフト

売上高推移 (単位:百万円)



営業利益 & 当期純利益の推移 (単位:百万円)

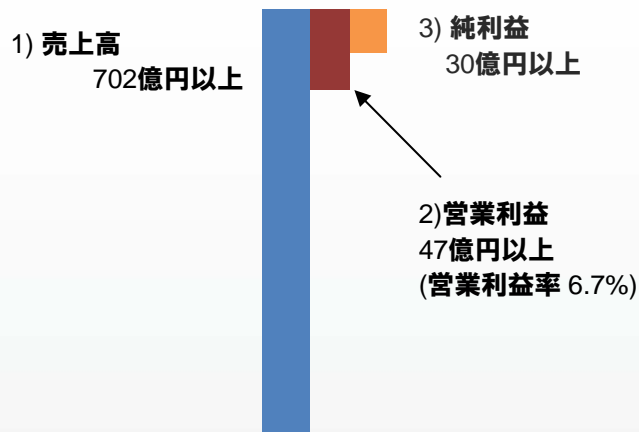


- ➡ 営業活動の集中化と最適化
- ➡ 高価格 & 高収益製品へ製品ポートフォリオの移行
- ➡ 将来高い成長率が見込める分野へ開発活動を継続
- ➡ 「製造のシルクロード構想」のさらなる推進により、生産効率の最適化の追求
- ➡ 製品デザインの改良による銅の使用量の最小化



2007年のピーク時業績への復帰

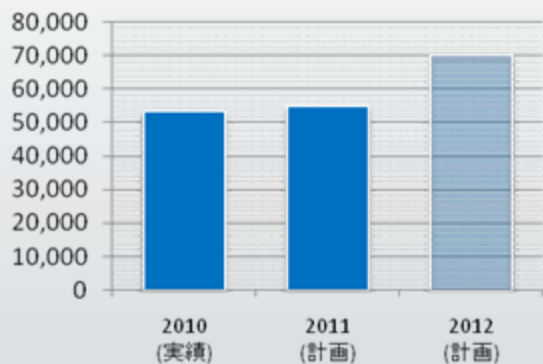
三つの重点目標



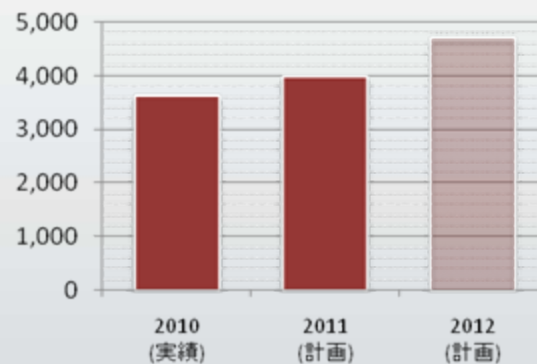
現状評価

- ▶ 収益目標は、改善努力継続により達成可能
- ▶ 売上高目標達成のため、最大限の努力が必要

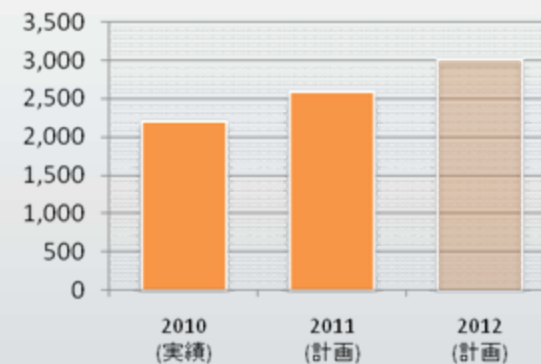
売上高の計画 (単位:百万円)



営業利益の計画 (単位:百万円)



当期純利益の計画 (単位:百万円)



業績連動配当

両立を図る

安定配当

1. スミダの配当方針

連結純利益(計画) × 基準配当性向(25~30%)

⇒ 2011年の年間基準配当額 = 28円 (最低保証配当は20円)

2. 期末調整

基準配当額 2011 + 期末調整額(下表の α)

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年間合計
2010年実績	5円	5円	5円	10円	25円
2011年予定	7円	7円	7円	7円+ α	28円+ α

- ✍ 2010年において、スミダは更に引き締まった体質となり、原価率を下げ、収益性を回復した。その結果、リーマン危機から立ち直り、将来の荒波を乗り切る経営体質を身に付けた
- ✍ 外的環境は、リスクも多いが、ビジネスチャンスも大きい
- ✍ 2011年は、ビジネスチャンスを確実に掴み、持続的な成長を維持できると見込んでいる

ご注意

本資料は、当社の評価を行うための参考となる情報提供のみを目的としたものです。投資等の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願い致します。投資の結果等に対する責任は負いかねますのでご了承ください。要約された記述、引用、データ及びその他の情報を含む当資料の内容は、情報提供を目的としたものであり、スミダコーポレーション株式会社についての投資勧誘、あるいは売買の推奨を目的とするものではありません。当資料に記載されていることは、事前の予告なしに変更もしくは存続しなくなることがあることをご承知下さい。当資料は、現時点で入手可能な情報及びリソースをかんがみた現時点の予測及び所信に基づく、将来予想に関する記述及び将来の成果の見込みを含んでいます。リスクと不確実性は、知られている場合及び知られていない場合の両方を含み、経済状況、金利の変動、競合のシナリオ及び規制、税制、会計原則の変更などに関連するところを含み、スミダコーポレーション及びグループ会社の実績、パフォーマンス、達成状況及び財務パフォーマンスについて、当資料で明示的に又は黙示的にあらわされたことと著しく異なるようなことを生じさせることがあります。当資料に関するすべてのことについて、限りなく、提供する情報について正確を期すようにしております。しかしながら、その正確性と完全性に関して、完全な保証または誓約は全く与えられておりません。スミダコーポレーションあるいはそのグループ会社は、いかなる誤り、不正確、もしくはそのことに付随して発生したいかなる損失、損害にも責任を負いません。また、当資料の日付以降、当資料に含まれる情報を公にアップデートする義務も負いません。